

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立城北中学校

1 自己評価書

教育目標		心身ともにたくましい生徒の育成				
基本方針		- 自己を律して、礼節を大切にする生徒 - 和を大切にし、自他を思いやる生徒 - 感性豊かで、明るく元気に活動する生徒				
本年度重点目標		- 基本的生活習慣の確立と確かな学力の定着 - 思いやりの心と助け合う態度の育成 - 生徒会活動・ボランティア活動の充実				
評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	後期のみのみ
				・具体的な対策の実施	A	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
(成果と課題) ○教科ノートの提出・再提出の継続的な指導により、学習内容の定着につながった。 ○「主体的に学習に取り組む態度」を評価する問題設定や、知識の活用・表現活動の指導により、自ら学習に向かう姿勢の育成につながった。 ○学習内容を自分の言葉で表現したり、知識を活用したりする力に課題が見られる。 ○学習が一時的な取組にとどまり、継続的な学習習慣の定着が不十分である。						
(改善策等) ○生徒が学習の目的や必要性を理解し、自主的に取り組めるような指導の工夫を行う。 ○授業内での表現活動や振り返り活動を充実させ、学びの定着と活用を図る。 ○教科間で学習への取組を共有し、生徒が自ら学習を調整する力の育成を継続的に進める。						
評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	C	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	C	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	C	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	
	・児童生徒アンケート	B				
(成果と課題) ○教職員間の協力体制を生かし、情報共有と連携を通して適切な支援につなげることができた。 ○学校生活や集団生活の決まりを理解できるように、継続的な指導が必要である。 ○保護者の学校への関心や要望を踏まえつつ、学校として大切にすべき方針を明確にしていける必要がある。						
(改善策等) ○決まりや望ましい言動を繰り返し具体的に伝え、場面に応じた適切な言動を身に付けられるよう支援する。 ○自分の言動が相手に与える影響を考えながら、善悪を自ら判断する力を育てる。 ○保護者と丁寧な情報共有を行うとともに、教職員間で共通理解を図りながら対応する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革（ワーク・ライフ・バランスの向上）に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○ 一部の教職員に長時間勤務が常態化しているため、組織としての業務の効率化や分担等は課題が見られた。 ○ 地域学校協働活動推進員、SSS、用務員、PTA事務、学校補助員等の協力により、教職員へのサポート体制が充実した。 ○ 教職員間でのコミュニケーションを図り、温かな人間関係作りに努めることができた。					
	(改善策等) ○ 一人ひとりが業務改善を意識し、教職員全体で働き方改革を実践していく。 ○ 一部の教職員に負担過重とならないよう、学年部内及び各学年部との協力体制を組織として実践していく。 ○ 部活動顧問と副顧問の連携や部活動指導員及びCCの協力により、教職員の負担を軽減し、心身の健康を守る。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ 地域とのつながりを大切に取組を進める中で、地域学校協働活動推進員の支援・調整により、教育活動を円滑に進めることができた。 ○ 地域学校協働活動推進員の支援に頼る場面が多く、地域との連携をより組織的に進める必要がある。 ○ 学級通信や学校だより、HP等を通じた情報発信については、好評をいただいている。一方で、来校等についてはやや心理的ハードルが高く感じられる保護者の様子も見られるため、来校しやすく、相談しやすい工夫が求められる。						
(改善策等) ○ 今後も地域学校協働活動推進員との連携を継続するとともに、関係者間の情報共有を図り、地域との協力体制を広げていく。 ○ 学校運営協議会の協議内容を全職員が共有し、地域の方々への感謝の気持ちを言葉や態度で表現できるような主体的に行動できる生徒を育成する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満